

## ベストクラス選定理由書

作成者：関裕子、藤原あずみ、佐古智香、田中来瞳、藤原和政、梅本優菜

科目名称	生徒指導の学校体制と教育委員会の危機管理（夜間クラス） (担当教員名： 新井 肇 )		
課 程	： 専門職	開講時期	： 後期
授業形態	： 講・演	授業規模	： 専門職（30人以下）
インタビュー対象教員名	新井 肇 (実施日時： 8月16日 ; 実施場所： zoomにて )		
インタビュー対象受講者名	中嶋 富美代 (実施日時： 8月29日 ; 実施場所： zoomにて )		
選定理由	<p>「学生による授業評価」から、「理論と実践が結びつきやすい」、「最新の情報が提供された（生徒指導提要の改訂等）」、「教員の熱意が伝わった」などの文言に、受講者のためになる、また受講者の身についた授業だったのではないかと感じたため、インタビューをさせていただき、担当教員と受講生の方から以下のようなことを知ることができた。</p> <p>① 受講生の実感に対してデータと、実践に対しては理論を重ね合わせる</p> <p>管理職の方が多く受講しており、知識を広げるよりもどうやって物事を捉えていくかを大事にしていた。実感と実践は個人的なもので既に持っているものであることからそれらを生かして、データと理論という普遍的なものに重ね合わせ、実感と実践を普遍的ものにしようとするような授業が展開されていた。具体的には今の子どもの実態を実感だけでなく、データや実際の子どもの声を聞いて考えることができるような授業が展開されていた。証拠を提示し、どのように読み取るかなどを議論を通して考えることで、勘に頼らず、これからの実践にどのようにつなげていくのかということ、受講者に身につけさせようという教員からの働きかけが伺えた。</p> <p>② 教員も答えの見えない問いをする</p> <p>① でも示した通り、教育の現象をどのように捉えていくかが大事である。担当教員が思う使命は「どのような問いを出すか」ということである。教員も答えのわからない問いを問うことで、より議論を深めることができる。また、教員が問いを提示するだけでなく、受講者も様々な事柄からテーマを考え、実際に問いを立てることができるようになることを身につけることも求められていた。また、担当教員の専門性が高く、最新の情報を聞くことができ、教育に対する熱情と愛情を持っていることが受講者にも伝わるような、とても熱意のある授業であった。</p> <p>以上の理由より、本授業は「ベストクラス」にふさわしいと考える。</p>		